



おかだ・ひろみ
名古屋女子大学卒業、平成元年より県立高
茶屋病院技師、4年松阪保健所技師、8年南
勢志摩保健福祉部技師、12年より現職。管
理栄養士

行動目標のなかに「新鮮で安全が保証された県産農水産物を食べる人の増加」として入れました。同じく行動目標の「残食量(食べ残し)の減少」は、当時農林水産省から出た「残食量が六〇〇キロカロリーある」との表現に衝撃をうけ、エネルギーの無駄づかいをなくそうということで、五〇〇キロカロリー以下に減らすという指標を設けました。

三重県は東西文化の交流地で、自然に恵まれ食材も豊富にあるので、もつと三重の食材をPRし食文化を大事にしていこうという意味で「三重の食を自慢できる人の増加」という指標も設けました。このへんが特徴的です。

——策定過程において、農政や教育部局と具体的にはどのように連携しているのですか。

岡田 以前から情報交換がよくされて

いましたので、計画のための特別な参加はしてもらわず、大まかなところは健康福祉部で決めたのですが、根拠の部分で不明なところを資料提供していただいたりしました。また、計画策定だけではなく実施段階、事業や普及啓発を一緒にとりくんでいます。

——指標の全体的な体系として、「知識・満足度を高める目標」「行動の目標」「健康指標」、QOLの視点で「わくわく・イキイキ・安らかに」があり、それを支える「環境整備を進める目標」があります。具体的に焦点をあててとりくんでいるのは、どの部分ですか。

岡田 「わくわく・イキイキ・安らかに」は大目標で、そのなかに食部分として「食事を楽しむことができる人の増加」が入っていますが、すべての項目が食に関連すると思います。いまとりくんでいるのは、やはりすぐに実践できる行動目標とか環境整備、知識・満足度を高めるという部分で、後者は時代の変化にあわせて常にみなおし・追加・修正をしていくこととしています。

——環境整備や行動目標を、他部局との協働でとりくまれています。今後はどこに重点をおいて展開されるのですか。

岡田 今度立ちあげた「健康食環境事業」のなかに「ヘルシー街づくり協働事業」があります。飲食店や食品加工者、食関連や街づくりのNPOや県民とともに、健康な食行動を支援する環境整備を考え、推進するものです。

その一環として昨年度から「健康づくりを発信する店」ということで、栄養成分表示をはじめとした健康づくり推進店拡大にとりくみました。栄養成分表示以外にも「県産品をたくさん使っています」という表示をするため農林水産商工部に相談し、数値として基準を設けるのはむずかしいので、三重県地図を描いたホワイトボードに「本

日使用している県産品」を表示してもらう形になりました。その予算は農林水産商工部にも出していただきました。また「郷土の味」を提供する店やバリアフリーなども含めてマップをつくるなど、他分野との協働で実施しています。昨年度は伊勢地区をモデル地区とし二四店舗がとりくみました。今年度は隣の志摩地区にも拡大する計画があります。さらに調理師連合会との協働で、全県的にモデル地区を増やせるような事業展開をすすめています。

それから「食育推進事業」に力を入れていく考えです。幼児期から生涯を